



とっても簡単 お得なスマートフォンアプリ「コラボレAR」をスマートフォンに入れよう!



手順通りにすれば簡単にスマホにアプリを入れる事ができるヨ!



★iPhoneをお使いの方は...

「コラボレ」をインストール

★Android携帯をお使いの方は...

「コラボレ」をインストール



「コラボレAR」のアイコン

# 有限会社アドバンク



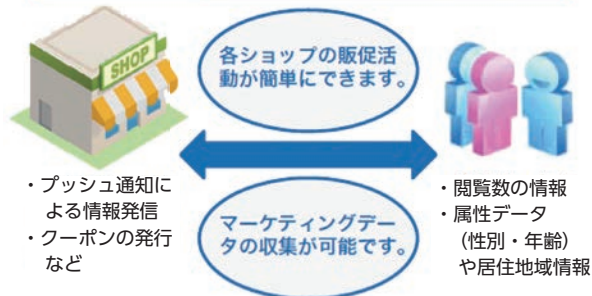
## DATA

代表取締役 渡邊 功  
〒601-8363  
京都市南区吉祥院嶋野間詰町52  
TEL 075-694-1312  
FAX 075-694-1313  
(2月13日から上記住所・番号に移転しました。)  
URL <http://adbank.co.jp/>  
コラボレURL <https://korabore.com>



代表取締役  
渡邊 功氏

## 管理システムの活用



「コラボレAR」のプッシュ通知の仕組み

## テーマ

# アナログ(折込新聞)とデジタル(AR)を融合したクロスメディア戦略

## 食品スーパー向け集客スマホアプリ「コラボレAR」を開発

弊社は1984(昭和59)年の創業以来、食品スーパーマーケットに特化した販促促進用印刷物の企画・制作・印刷を手掛けています。印刷・スーパーの両業界が低迷する中、顧客にとって利便性の高い仕組みを考案・開発してきました。その一つが2007(平成19)年より始動させた「コラボレーションチラシ」です。スーパーのチラシ裏面に他業者が広告を相乗りすることで互いに広告費を削減できる仕組みで、特許も取得し、好評をいただいています。

2014(平成26)年からは制作・印刷現場における生産性の向上にも注力しています。独自開発のチラシ制作ソフトの導入、原価管理の徹底、公的補助金を活用した設備投資などにより収益性の向上に努めてきました。また並行して、食品スーパー向け集客スマートフォンアプリケーションソフト「コラボレAR」の開発にも着手しました。これは、会員限定の特価情報などを埋め込んだチラシやポップにスマホをかざすと情報が画像として浮かび上がる「O2O」(Online To Offline)の仕組みを利用しています。チラシ作成契約の維持を条件に、アプリの無償利用やアプリ対応のチラシ納入を提案することで、新規顧客獲得も含めてチラシ印刷の受注拡大を目指すビジネスプランが評価され、このたびオスカー認定をいただきました。

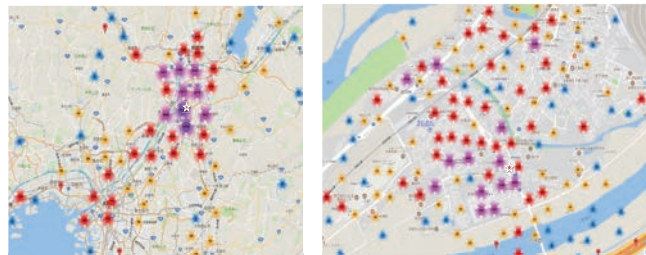
## プッシュ通知の活用によりマーケティングデータを収集・分析

2016年10月～2017年9月 月別分析表

項目/名称	2016年10月	2017年9月
0001_店舗集客アプリ	3,379	3,037
0002_ホームページ	88	77
0004_チラシ(折込チラシ)	17	18
0005_チラシ(折り紙)	11	10
0007_チラシ(特価)	13	8
0009_支店二層分	2	6
0006_AR View	16	17
0008_全店のチラシ	2,397	2,199
0003_集客(集客用)	11	10
0004_店舗集客	14	24
0001_集客情報	2	10
0002_プッシュ通知	27	25
合計	17,831	16,217

「コラボレAR」の分析機能により顧客に提供している月別分析表

「コラボレAR」の強みは大きく2つあります。一つは、マーケティングデータの収集・分析力に優れていること。アプリ登録を通じて取得した来店客の居住地域、



来店客の居住地域、年齢、性別などマーケティングデータの収集が可能

性別、年齢などのデータをもとに、アプリの店舗画面や店舗が配信する各コンテンツ、チラシなどへのアクセス数をセグメント別に集計・分析することが可能です。もう一つは、各店舗からユーザーにセールやイベントの情報を送る「プッシュ配信」機能を備えている点にあります。ターゲット層に絞って配信できるうえ、その閲覧数はもちろん、特定のURLへの誘導数や誘導先での滞在時間、購入数などもセグメント別に把握できるようになっており、費用対効果は一目瞭然です。弊社は顧客(スーパー)に対して、集計・分析結果を月別にまとめたレポートを提供。店舗におけるチラシ配布地域の見直し、コンテンツ・販促企画などに活かされています。

## 収益力アップに向けて新規事業の確立を目指す

現在、アプリを導入している顧客は約70店舗にのぼり、アプリの個人ユーザー数も1万人を突破しています。制作・印刷現場の生産性向上とアプリの相乗効果により売上は順調に推移しており、『攻めのIT経営中小企業百選』選定、『関西IT百撰』最優秀賞受賞、そして今回のオスカー認定に至りました。これらは、舞鶴市の企業版ふるさと納税など弊社が積極的に行っている社会貢献と同様、社員が自社に誇りを持ち、高いモチベーションで業務に取り組むことにつながっています。この榮譽を糧として、将来的には印刷事業と並ぶ柱となる新規事業を確立することで、さらなる収益力の向上を目指したいと考えています。